

季刊
あずみたかのぶ
安住太伸
レポート

H14 新緑号

皆様 お久しぶりです！
お元気でいらっしゃいますか？

「お変わりありませんか？」と、お尋ねしたあの夏から、さらにひと夏が過ぎてしまったことを、皆様にもまず、お詫び申し上げなければなりません。

この間、私は、皆様からお寄せ頂いた、様々なご意見・ご要望にしっかりとお応えできる様、精一杯、努め続けるのはもちろんのこと、本会

議・各種委員会等での質問をはじめとする、積極的な議会活動を通して、日々、多種多様な市政の課題と向き合い、また、そうした活動の中から、さらに新たな課題を次々と見出す毎日の連続でした。

そんな、追われ続ける様な毎日の中で、「今のこの思いを、この市政の変化を色々とお伝えしたい…」と思いつつ、いたずらに時間はかりが過ぎていくことを、とても申し訳なく感じておりました。

一方、次から次へと、湧き起こる様に現れてくる諸々の課題に、ただ一心不乱に向き合い続ける毎日の中で、私自身、身の進もうとしている方向性

が決して間違っていないとの確信を掴めたことが、議員として、ちょうど丸三年を経過した現時点での、確実な、そして嬉しい進歩と感じてもおります。

誌面の都合があり、今回はその詳細をお伝えすることはできませんが、例えば議会で質問をしてきたことの多くが既に市政において改善をされ、あるいは新たななる制度・事業として採り入れられ、さらにまた、昨年の議会人事の折には、福祉、環境、市民生活他、皆様の日々の暮らしと直接的に関係の深い分野を所管する民生常任委員会の副委員長としての職責を仰せつかりまし

た。こうやって、一歩ずつ前進をしながら、議員としての努めを全うさせて頂けることは、すべて、陰に日向にお支え頂いている皆様のご厚情の賜物と、いつも本当に、心から、感謝申し上げます。

ありがとうございます！
 ご報告申し上げたい変化がもうひとつございます。私の活動のあれこれを紹介致しますホームページが、ようやく皆様にご覧頂けるところまでまいりました。まだまだ発展途上のページではありますが、今後は、インターネットの即時性を十分に活かし、このレポートと合わせて、皆様とのパイプをより太く確かな

ものとする事ができる様さらに努めてまいりたいと思っております。

《安住太伸のホームページ》

http://plaza10.nbn.or.jp/~t_azumi/

三月末のある昼下がりに、流通団地方面での会合を終えて表に出た時のことです。早春の空気の、あまりの清々しさと澄みわたる青空の素晴らしさに、思わず足が、東二条の自宅に向けて勝手に動き出してしまいました。

新富と東との境界を過ぎた辺りで、何気なくふと左手を

見上げた時に、建物の谷間から突然、見えた大雪の山並の神々しさ、そして美しさ...

追われ、さ迷い続ける様な毎日の中で、何か、大きな力が自分の進むべき道を指し示してくれている様な気がして、この感動を、この今の勇気を、どうにかして皆様にお伝えできないものかと、なぜか胸に込み上げてくるものを禁じ得ませんでした。会合の疲れも何もかも吹き飛び、さらに強くなり、元気に皆様のもとへと再び歩き出す新しい自分をしっかりと感じた瞬間でした。そして今、匂いたつ様な新緑の季節に、もう一度また、皆様にこの紙上で、こうして

お会いできますことを、本当に、嬉しく思っております。

ここで、昨年十二月に行われました、第四回定例会での一般質問の要旨をご報告させていただきます。

最初に、「牛海綿状脳症」、いわゆる「狂牛病」の検査が開始されて以降の、食肉衛生検査所の検査体制について質問を致しました。

どんな問題でもそうなのですが、私は常に、自ら直接現場を確認した上で、その改善すべき課題なり事態を捉える様にしております。とりわけこの問題は、私達の、日々の食生活の根幹に関わる重要な課題です。まずしっかりと

自分の目で、五感で、何が起きているのかを調査し、その上で、緊急の課題と思われる高度な検査体制の維持・改善に必要な事項に関し、質問ならびに提言を致しました。

その結果を受けて現在、必要であると申し上げた新たな検査体制が新年度から確立され、今に至っております。

次に、真に障害者の立場に思いを馳せた、より細やかな福祉のあり方に関して、施設ご利用上の不都合や、道路をお使いになる時の問題点など具体的な事例を挙げ質問をし、何よりもそうした課題の改善のためには、市職員自身が、広く市民の皆様にご訴えかけて

いくことも含めて、双方の意識の段差を無くす、いわば心のバリアフリー」を強力に推進していくことが根本的に必要である旨につき質問しました。

福祉の問題に関しては、「ハード」、いわゆる設備等に関する部分と、「ソフト」、いわゆる意識や心に関する部分の両面を、共に充足していく必要性があるものと認識しております。特に後者の問題に関しては、実際にその立場になってみなければ、なかなか理解することのできない殆どの課題に対し、やはりまず、職員の皆さんから率先して、「心のバリアフリー」を実現していかなければならない、

との強い思いを、私自身、常々
持っていたことによります。

折から財政難の現在、逆に
言えば、お金をかけなくとも、
職員の皆さんが意識を変え、
ちよつとした行動の変化を起
こすだけで解決できる課題も
少なからずあると認識してお
ります。「行財政改革」そのも
のも、私の公約として大きな
テーマであります。それは
また別の機会に譲るとして、
現にそれを必要とする方がい
らっしゃる福祉については、
一步一步、こつした取組を、
今後とも続けてまいりたいと
思っております。

紙面の都合上、途中を一部
省略させて頂きますことを、

どうかお許しください。その
部分を含め、詳細は是非、私
のホームページにてか、お問
い合わせ頂ければと思います。

最後に、ここ数年、旭川市
にとつて最も重要な政策課題
である「地域経済の活性化」
について質問を致しました。

特に、一向に改善しない、
むしろ悪化の傾向が顕著なこ
とに対する行政としての認識
その最大の原因が、市が、地
域と産業の将来ビジョンを明
確に持ち得ていなかったため、
結果的に、目先の問題に終始
せざるを得なかった点にある
こと。

さらにまた、その背景に、
ビジョンを描く上にも、その

基となる統計データや、市民
経済計算・産業連関表などの
基礎資料の整備を十分に行つ
てこなかったこと。

結果的に、数々の産業・経
済対策関連の政策効果や諸課
題等の把握が十分にできず、
中長期的な視点を持ち得ない
という事態を招き、いきおい
カンフル剂的な景気刺激策し
か採り得なかったこと等を指
摘させて頂き、市の今後の抜
本的な取組を問い質しました。
話は変わりますが、この、

第四回定例会が行われていた
昨年の十二月は、実は、近年
で最高の積雪を記録した大雪
の月でした。私自身、玄関や
家の前の除雪に、日に何度も

追われるという日がありましたが、皆様もご記憶に新しいことと存じます。

悪いことは重なるもので、その大雪に加えて、まだ、冬の始めで、気温もさほど下がっておらず、路盤も固まっていなかったので、道はふさがり、そのふさがった道の雪面も崩れ：それはそれは散々な年の瀬でありました。

年末から年始にかけて、お伺いする会合やら、あるいはお電話等で、随分と除排雪についての叱りを頂戴いたしました。

そうした折にも私は、必ず、お話のあった場所に実際に行つて、状況を確認させて頂い

ております。除雪センターに連絡をするにしても、役所に對しても、責任を持って内容を伝える以上、それが私の責務だと考えるからです。

特に議会中は、深夜まで調べものをしたり、何日か続けて徹夜をすることもあったりするのですが、その合間に除雪の現場を見に行ったり、また、除雪センターに、色々とお話のあった内容を伝えるに行ったりもしながら、可能な限りの対応をさせて頂いたつもりであります。それでも尚、不行き届きな点、多々あったことを、本当に、申し訳なく思っております。

そんな中、実はこのことは

議員に当選させて頂く以前から漠然と感じていたことではあるのですが、除排雪の問題は、やはり雪国固有の最重要課題のひとつとして抜本的な解決を図らなければならぬ、ということ、私自身、生活者としての視点において、改めてより明確に、強く感じた次第であります。

片や、同時期にご案内した、最近、特にその来訪が増えている台湾からのお客様には、その雪がとても幻想的でロマンチックであると賞賛頂き、また、この雪景色がとても印象的で、本当に美しいまちだとのお誉めも頂きました。

また、近年、この雪を利用

して、農作物の品質管理や夏の空調に活かすという取組が道内各地で増えてきてもおります。この「にくい」雪も、反面、私達に潤いをもたらしてくれ、大きな経済効果の源にもなり得るのです。

そうした側面も踏まえた「総合雪対策」の必要性を訴えかけてきた経過の中で、実は、昨年暮の機構改革時に、「総合雪対策担当部長」が新設されているというところをご報告申し上げておきたいと思っております。その取組はまだ始まったばかりで、必ずしも明確な、目に見える成果を挙げてはおりませんが、これもまた、一步一步、生活者としての視

点も大切にしつつ、着実な取組を続けてまいりたいと思っております。

残る紙面もあとわずかとなってしまいました。予算審議の議会であった二月、三月の定例議会のご報告は、別の機会に譲らせて頂き、最後に、さる三月末、生意気にも私講演というものを初体験させて頂きましたこと、その一部内容をご報告させて頂きますと同時に、その機会を与えて頂いた関係者の皆様に、この場をお借り致します、厚く御礼申し上げます。

この三年間の、議員としての活動の集大成という思いで一生懸命に取り組みさせて頂

きました。結果、日頃からの調査分析に、さらに、熟慮を重ねて準備をし、当日の一時間半という時間がとても短かく感じられた程でありました。早口(やはり…)であったり、その他、反省すべき点多々ありますが、日頃、ご支援頂いているすべての皆様の顔を思い浮かべつつ、思いを込めて一生懸命、話をしましたことご報告させて頂きます。

春です。北海道はこれから最高の季節を迎えます。お体にお気をつけて、どうかお元気でご活躍ください。

皆様のご多幸をお祈り申し上げ、本レポート結びの言葉に代えさせて頂きます。

ありがとうございました。
今後とも、変わらぬご支援を
心からお願い申し上げます。

《旭川鐵工組合様講演要旨》

平成十四年三月二十二日

～花月会館にて

テーマ『旭川 この地域の
経済活性化について』

ここ数年、何年間も本市の
重点政策課題として位置付け
られ、様々な取組が進められ
てきたはずであるにも関わら
ず、むしろ悪化の傾向にある

旭川経済で、一体、何が本当
の問題なのか？

近年、急場凌ぎのカンフル
剂的な対策に終始せざるを得
なかった行政の真の問題はど
こにあるのか？

ひとつには、基礎データの
不足とそれに基づく調査・分
析の甘さから、目を向けるべ
き重要な課題をいくつも捉え
損なったこと。

さらには、行政としての公
平・公正さに捕われるあまり、
本市経済全体への波及効果等
に着目することもなく、本来、
前述の様な、定量的な調査・
分析の不足と不備を補完する
ための、個別業種や企業との
双方向での接触が切断され、

意欲と能力ある特定業種ある
いは企業等を上手にバックア
ップしていくという前向きな
決断をなし得なかったこと。

その結果、一律横並びでの、
従来通りの制度融資をはじめ
とする緊急経済対策に終始せ
ざるを得なかったこと。

一方、国・道の考え方には
明確に変化が生じてきている
こと。

すなわち、意欲ある企業を
積極的に支援していきつとい
う最近の動向、そして、その
流れの中で、具体的に、道の
推進する新規成長分野の紹介
とその分野との関連における
旭川での新たな成長可能性
について。

ちなみに道の推進分野は、

文化的分野

健康・福祉関連分野

いわゆるIT関連分野

環境・リサイクル分野

産業支援の分野(産業

支援)例えば、ある業界

が新しい素材・技術等を

開発することで、他の業

界にまでその経済効果が

波及する様な産業活動)

住宅、都市などの住に

関するインフラ部分

以上の六つ。

これらの分野をターゲットに、旭川で取り組むべきこととして業種・業界を超えた柔軟なネットワーク創りの必要性を提言。具体的に、東大阪

での中小企業ネットワークの取組を紹介。

何より、この旭川で何ができるのか?その模索に私自身今後とも情熱を持って皆様と共に関わってまいりたい。

以上



初めての講演会 ~ 鐵工組合様例会にて ~

へお知らせ

恒例の

ビア・パーティー(予告)

とき 八月六日(火)?

ところ パレスホテル

かいひ 二千元

今年も色々楽しい企画をご用意

させて頂きたいと考えております。

近くなりましたら、あらためて

ご案内申し上げます。

その節は、皆様お誘い合わせの上

多数ご来場賜ります様、心よりお待ち

申し上げます。

あずみ たかのぶ

安住 太伸 議員

自宅 旭川市東二条二丁目一九

電話・ファックス 一七 五七〇

E-mail azumi@ac.mbn.or.jp